

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年7月）

《今月のトピックス》

- 手足口病の報告が続いています。流水と石けんでのこまめな手洗いを心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。肉などの食品は十分に加熱し、食事の前などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しています。引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年6月24日～7月21日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	急性弛緩性麻痺	1件
腸管出血性大腸菌感染症	13件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
E型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
レジオネラ症	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	28件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5件	百日咳	2件

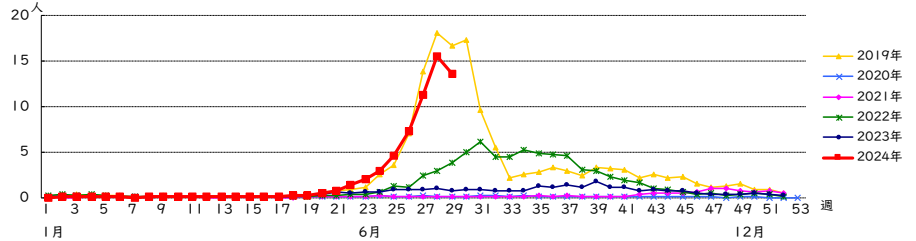
1. **細菌性赤痢**:40歳代で、経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～70歳代で、O血清群はO157が7件、O26が2件、O103が1件、O血清不明が3件です。経口感染と推測される報告が4件、感染経路等不明の報告が9件です。
3. **E型肝炎**:いずれも50歳代で、経口感染と推測される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **レジオネラ症**:40歳代～70歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
5. **ウイルス性肝炎**:10歳代で、病原体はB型肝炎ウイルスです。感染経路は針等の鋭利なものの刺入による感染または性的接触と推定されています。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～90歳代で、手術部位感染と推定される報告が1件、以前からの保菌と推定される報告が4件です。
7. **急性弛緩性麻痺**:10歳代で、感染経路等不明です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:60歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳～60歳代で、血清型A群が3件、G群が2件、血清群不明が1件です。その他の感染経路(蜂窩織炎1件、医療器具1件)と推定される報告が2件、感染経路等不明が4件です。
10. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回2件、3回3件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が3件です。
11. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間21件、同性間2件、異性間・同性間1件、性別不詳3件)、感染経路等不明が1件です。
12. **百日咳**:10歳未満～10歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、感染経路は周囲の流行によるものと推定される報告が1件、家族内感染と推定される報告が1件です。

報告週対応表	
2024年第26週	6月24日～6月30日
第27週	7月1日～7月7日
第28週	7月8日～7月14日
第29週	7月15日～7月21日

◇ 定点把握の対象

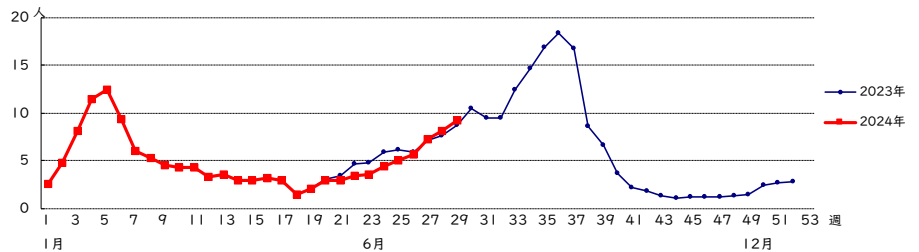
1 手足口病

例年より早い時期に報告数が増加しはじめました。2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第29週は13.55です。横浜市感染症臨時情報も併せてご覧ください。



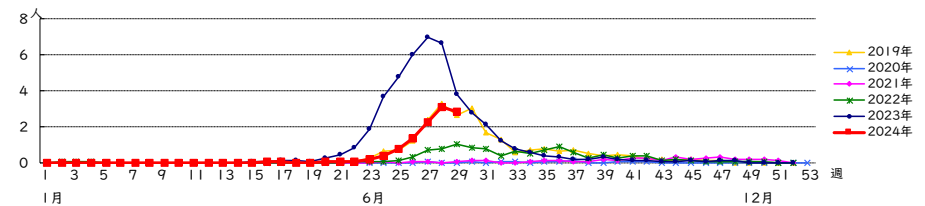
2 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移していましたが、5月以降増加傾向が続いています。第29週は9.21です。



3 ヘルパンギーナ

2024年第22週以降増加しはじめました。第28週は3.13、第29週は2.89です。



4 性感染症(2024年6月)

性器クラミジア感染症	男性:49件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:2件	淋菌感染症	男性:19件	女性:0件

5 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.50	0.75	1.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.25	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第26週～第29週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点22件、内科定点6件、定点医療機関外1件でした。

8月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離2株と遺伝子21件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第26週～第29週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	発 熱
	アデノウイルス 2型	2 -			
RS ウイルス	- 1	- 2	- 1		
パラインフルエンザウイルス 3型	- 1	- 2			
コクサッキーA5型	- 1				
コクサッキーA6型	- 1		- 3	- 1	
コクサッキーA10型	- 1				
パレコウイルス 1型	- 1	- 1			
ライノウイルス		- 3			- 1
ボガウイルス		- 1			
合 計	2 6	- 9	- 4	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第26週～第29週の「菌株同定」について医療機関からの検査依頼は、基幹定点医療機関からメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件、サルモネラ症2件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件、壊死性筋膜炎1件でした。

保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症7件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症4件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6件、侵襲性肺炎球菌感染症4件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第26週～第29週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	<i>Staphylococcus aureus</i> POT106-77-113 PVL産生 (2)
		サルモネラ症	2	<i>Salmonella</i> Chester (1) <i>Salmonella</i> Enteritidis (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
		壊死性筋膜炎	1	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (1)
保健所		腸管出血性大腸菌感染症	7	O103 : H2 VT1 (2) O157 : H7 VT1 VT2 (3) O157 : H- VT1 VT2 (1) OUT : Hg2 VT1 VT2 (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (2) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (3) A群溶血性レンサ球菌 T12型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (2)
		侵襲性肺炎球菌感染症	4	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23A (1) <i>Streptococcus pneumoniae</i> (3)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ症	2	培養 陰性 (2)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	発熱、咽頭炎、咽頭痛	1	A群溶血性レンサ球菌 T1 陽性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】